

熱海市総合計画審議会・熱海市総合戦略会議 第2回会議結果

日 時 : 令和8年2月2日 (月) 14時～15時55分

場 所 : 市役所第3庁舎会議室

出席者 : <委員> 石井委員 (副会長)、井戸委員、岩瀬委員、小泉委員 (会長)、大館委員、佐野委員、田中委員、谷委員、土屋委員、出口委員、中島委員、西島委員、野中委員、福島委員、森田委員、山田委員 (代理出席: 北澤氏)

(欠席) 原委員、福嶋委員

<策定委員> 吉徳副市長、鈴木副市長、三枝市民福祉部長、立見観光建設部長、小坪健康福祉部長、田中公営企業部長、轡田消防長、森野教育委員会事務局長、窪田観光建設部次長、高久危機管理監、高橋会計管理者

<事務局> 小山経営企画部次長・佐藤企画財政課長・後藤企画室長・企画室

配布資料: 資料8 熱海市社会福祉協議会 福島委員意見資料

議事

1. 開会 (経営企画部次長)

2. 会長挨拶

それでは本日もよろしくお願ひいたします。

前回に引き続いて今日は後期基本計画の各施策についてご説明いただき、皆様からご意見をいただくということになっております。この総合計画でございますけれども、国には昔、昭和25年の全国総合開発計画、そして都道府県には地方開発計画というのがあって、都道府県は大体昭和27年から作り始めました。市町村にはこういう総合計画はありませんでした。昭和40年代になって三鷹市とか武蔵野市で市民と一緒に計画を作らなければいけないということを提唱した東大の先生とか住んでいたりして、いろいろありまして総合計画というものがスタートしたわけでございますが、それを自治省が地方自治法を改正して盛り込んだり、今ちょっと削除しましたが、という経緯がございます。

熱海市は静岡県内でも市になったのが非常に早い市でございますので、そういった意味では、この総合計画の取り組みについても静岡県内でも熱海とか沼津が早く、特に昔ながらの、ある意味では伝統も引き継いでいるかなというふうに私は見ております。その1つが今日各部長さんからご説明いただきますが、5年前、私と副会長の石井さんと中島さんも委員でいらっしゃったと思いますが、この計画のまず全体をやったときに部会に分かれて議論いたしまして、それが今の計画になっております。そういった意味で、各部長からご説明いただくという仕組みでやっているのは意外と静岡県内でも多分沼津と、沼津は部会を後期の場合にはやらないとあるんですが、要はそういう意味ではやり方が本家本元的なところだということだけちょっと申し上げさせていただきます。

皆様には各施策についてお話がございますので、またご意見をいただくということで、た

だ総合計画の性格上、具体的な内容を書かないで、ある程度まとまった書き方になってしまっていますが、実は重要なことは、どうやって書いてあることを前に進めるかということでございまして、そういった意味では、いただいたご意見のうちこの計画にそのまま文言として反映するものもあれば、実施する段階でそれをまた生かしていただくというものもございますので、必ずしもこの言葉に書いてあることをこうだということじゃなくても結構でございますので、ぜひ施策についてのご意見をいただければと思っております。よろしく願いいたします。

4. 委員自己紹介

○前回欠席の大舘委員、森田委員より自己紹介。

5. 第五次熱海市総合計画後期基本計画（案）について

○後期基本計画（案）【1】から【3】までの各施策について、担当の策定委員より説明。

議事の都合上、【2】→【1】→【3】の順に審議を行った。

○観光建設部長より【2】(1)観光の振興について説明。

【福島委員】今の指標の中で、市民による推奨度っていう意味がちょっと意味合いとしていまいち頭に入ってこないというか、市民が何を誰に対して推奨するのが30%とか、その30%が高いのか低いのか、妥当値が説明の中ではちょっとわかりにくいかなと思いました。

観光の振興ですから、観光客の方が熱海に来てよかったっていう何かそういう観光客の満足度みたいな方が指標としてふさわしいのかなっていう気がしたんですが、その辺は観光基本計画の絡みもあるでしょうが、その辺はいかがでしょうか。

【観光建設部長】ありがとうございます。まず推奨度ですけれども、こちらは市民の方々が熱海を居住地、滞在地として他者に勧めたいと思う割合ということを設定しております。観光基本計画の議論の中においては、最初は市民による観光施策に対する満足度というところを指標として置いておりましたけれども、そこから1歩進めて、満足度があった上で他の人にも熱海を勧めたいかと思うところを目指したらどうかというようなことで、観光基本計画においては推奨度というところを置いてございます。また、30%という数字ですけれども、個人的には仮置ではありますけど、少し高い目標値かなというふうには思っています。なぜかといいますと、今、総合計画の方に書かれている括弧書きで29.8%という数字が出ております。こちらが毎年市民アンケートをとっている中で、観光施策に対する市民の満足度が11の施策の平均を取った形でやっているんですけれども、特にオーバーツーリズム、駐車場対策等々が、非常に評価が低くて全体として29.8%と観光施策に対する市民満足度は非常に低くなっているというところから、推奨度はさらに1歩進めて、満足度が高くなければ推奨するまで行きませんので、設定の30%というのは少し高いかなというふうには考えておりますが、初年度、令和8年度に調査をした上で微修正をしようというふうに考えてございます。

またもう1点、観光客の満足度の方がいいのではないかなというようなご意見でございました。ちなみに観光基本計画においても訪問者による推奨度、同じように満足度から1歩進めて熱海

を訪問される方々が他の観光客に対して熱海がいいところだよってお勧めするかという推奨度を目標としております。こちらも初年度の基準値はないんですけれども目標を50%、熱海にこられた観光客の半分の方が他の人に熱海いいよって伝えていただけるようなところを目標値としておいているというところでございます。

【中島委員】部長からご説明がありましたけれども、熱海は観光協会が6つあります。各地区がそれぞれの特徴を持って活動をしておりまして、それを今取りまとめているのが新しくできた観光局という形になります。ですので、その観光局がやっているDMOというのが、やはり住んでよしと。観光客の皆様にも満足度を高めなきゃいけないんですけれども、やはり熱海に住んでいいというようなところも大切にしておりますので、今まではお客さんだけというような視点でやっておりましたけれども、熱海に来ていただいて、なおかつ移住をしていただくというような施策も進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

【小泉会長】確かに、実は移住の1つの理由が観光で来たのがきっかけというのは全国的にあるところがございます。もともと熱海のいろんな外から来られた方もそういうことが多いかと思えます。森田委員も商工会議所の会頭でいらっしゃいますが、旅館協同組合の代表もやられているようでいらっしゃいますのでお願いします。

【森田委員】内容的にはいつも話し合っている内容なので、まだ大体納得しております。やはりこれから、少子高齢化が日本でどんどん進んでいく中で、もう団塊の世代も75歳以上になりましたし、そういう中においてはやはりこれからインバウンドを積極的に取っていかなければ、360万人とってまますけども、そういう数字出てこないと思えます。ただ360万人は比較的難しくないっていうのは、これから800室ぐらいホテルができるんですね。ここ数年で。それだけでも1日2000人ぐらいのキャパが増えますので、普通にやっていけば350~60万人行くと思えますんで、むしろここに総合計画の中にはそこのところは書かないかもしれないけど、お客さんの取り合いよりも業界的には人の取り合いの方がすごい厳しくなるなという感じですよ。

それともう1つは、大体新規で出来ているのは今の熱海に目をつけていらっしゃっている東京資本のかいところなものですから、いわゆる既存店売り上げというか、それも総合計画の中に書くような話じゃないかもしれないけど、いわゆる老舗がちゃんと生き残れるかどうかということが、私の立場からすると一番心配なところですよ。向こうは上場企業でございますのでそこ対抗していかなければいけないと、そんなことを思っております。住む方に関してはやはり住んでよし、訪れてよしというのが、これからの観光地の形だと思っておりますので、やっぱり住んでいる方が熱海に誇りを持ち、観光客が観光に来たことによって熱海を好きになって、二地域居住からでもいいから始めて、最終的に熱海に住んでもらって人口が少しでも増えるというのは理想の形だと思いますので全く賛成でございます。

○観光建設部長より【2】(2)商工業の振興について説明。

【森田委員】非常にこの商工業の振興は難しい問題があるんですけども、私も Amazon で買うのもよくないことだというふうに言わなければいけないようなそんな感じでございますけども。やっぱり市内の個店、中小零細企業を応援していくのが商工会議所の役目だというふうに、それはもちろん思っておりますので、とにかく商店街の方々が何とか熱海の市内の方、そして観光客の方に魅力ある商品づくりをやっぱり応援していくしかないというふうに思っております。そういう A-plus とか商工会議所でもやらしていただいて、主にお客さんのお土産中心でございますけども、魅力的な商品を今開発していて、そういったものはもう売れ筋となっておりますけども、観光に関係ない分野ですねそっちの方も含めて考えていかなきゃいけないってところです。あともう 1 つなのは結構おいしい食べ物屋さんがあるんですけども、後継ぎがないっていうのは非常にどこの街でもあると思いますけども問題がありましてですね、やっぱり私どもみたいに地のものからしますと、残って欲しいなっていう店がやっぱ何軒もあるわけですけども跡継ぎがないっていう方もいらっしゃるんで、血縁関係がなくてもつなげていくようなことを商工会議所としては積極的に考えていかなきゃいけないなというふうに思っております。

【小泉会長】会頭からも事業承継の関係が出ましたが、三島信用金庫さんも非常に事業承継の関係は地域で広く頑張っておられるんでお願いします。

【野中委員】やっぱり後継者がいないですとか、もう今の経営者が高齢になっているという企業さんも市内は非常に多くなっているという状況で、会社全体としても今その事業承継というのは非常に積極的に相談しております。いろんな形で、まずお客さんとこでいろいろヒアリングをしながら対応できるという地元の企業さんが残るといふ形、先ほど森田委員からもあったように 800 室ホテルができるという状況ですけど、どっちかというところと東京資本となるとやっぱり地元の企業が非常に厳しい状況にもなってくるっていう中で、どうやって引き続き存続させて、企業数を減らさないようにそこは取り組んでいきたいなというふうに思っております。事業承継の相談っていうのもかなり増えてきてますんで、積極的にそこは対応して、地元企業を残すということで取り組んでいきたいと思っております。

【小泉会長】まさに地域の経済循環で、利益がみんな外へ持ってかれないうように、地域で回るということが重要かと思えます。

○観光建設部長より【2】(3)起業・創業の支援と雇用の創出について説明

【小泉会長】大舘委員。このリノベーションまちづくり私も非常に関心があって幾つか地域で関わっているのですが、司法書士の方から見たときに、熱海ではこれからどうしていくとよいか。元々活躍していた経営者が高齢化してくるけれども後継者がいないと。新しく用途をちょっと変えて新しい方を引っ張ってくるということも起こっているとは思いますが何かお知恵とかどうでしょうか。

【大館委員】 リノベーションをされて販売しているケースは多々出てきていると思うんですけども、私の印象ですけれども、市内のリノベーション自体はおそらく居住利用ではなく店舗型がほとんどになると思いますので、居住向きというわけではないんだと思います。ほとんど店舗として営業か賃貸で回すということになってくるので、この指標の従業員を増やすというところも影響してくるんだと思うんですけど。結局、これから森田委員がおっしゃっていたようにホテル等の従業員数を確保できるキャパができたとしても、おそらく住まいの提供とかそこら辺が熱海はちょっと不向きで、どういう形で居住地を確保していくかというところが今後かなり大きいんじゃないかなと思います。どうしても街中だと居住ができる地区が少なくて、山の上とかそっちに行かないと熱海は住むところが少ないので、やっぱりそこら辺をどう利用して、せっかくこれだけ仕事の従業員が増やせるキャパができたのに住んでもらえる環境がつかれるかというところは今後大きいんじゃないかなというふうに思っております。

【森田委員】 別に基本計画案を直して欲しいわけではないんですけども、この市内従業者数というのはどうしても市内ですとホテル旅館が多いわけでございます。非常に今は人気のない職種になっておりまして、大体ご想像つくとおおり、朝早くて夜遅かったりとか、各旅館では個人個人で努力なされて、いわゆるたすき掛けをやめてマルチタスクをして時間を短くするとかそういう努力なされているところもあるんですけども、ホテル旅館の給料、福利厚生も含めて他業種に負けているところがあるものですから。先生なんかよくご存じのとおり、休日数見ただけでももう全然、学生さんはもっと休みが120、130日あるところに行っちゃうような世の中でございますので、もちろん目標は目標でいいんですけど、業界としても相当我々が努力しないと、やっぱり働きたくなる職場を作っていくといけないなというのは、ちょっと自分に対して戒めに言っているところはありますがそう思います。

【大館委員】 不動産のリノベーションの件で、私のイメージだとリノベーションが民泊に利用されているケースが多いんだと思うんですけど熱海市として民泊施設数の把握はされているのでしょうか。

【観光建設部長】 ちょっと手元に数字持っておりませんので正確な答えができませんけれども民泊をお届けするには県の方に届け出る形になります。熱海市においては昨年4月より宿泊税を導入したということもございまして、民泊に対しても宿泊税をお願いしているところから、その数、営業状況については把握をしております。それほど思ったほど多くはないかなというふうに思っております、30件ぐらいかなと思っております。今の段階では。ただ、今後、おっしゃられるように物件、特に店舗型ではなくて住居型のところのリノベーションによって民泊に適した物件というのは数多くあるというふうに認識をしておりますので、今後増える要素はあるのかなというふうに考えております。

【森田委員】 最近流行っているのがバケーションレンタルといいまして、一棟貸しで場合によ

ってはプールやサウナがついて 10 万単位のもの目立つところにもたくさんある。そういうのは民泊ではないと思うんですけど、バケーションレンタルほどの枠組みなんですか。

【観光建設部長】森田委員さんおっしゃられるように今増えてきております。一棟貸しで基本的には簡易宿所の扱いでやられておるのがほとんどでありますので、民泊ではなくてしっかり旅館業法で載っておりますので、通年営業ができる状況ではあります。

○観光建設部長より 【2】 (4) 農林水産業の振興について説明。

< 質疑・意見なし >

○市民生活部長より 【1】 (1) 市民協働のまちづくりについて説明。

【福島委員】次の地域福祉の方に指標でリンクしているところがあるので参考までお伺いしたんですが、地域活動に参加している市民の割合が現状 50% で目標は 55% ですが、この数値が近隣の市町村と比べて高いのか低いのか。もしくは熱海は逆に市民の活動の割合は比較的高くて、さらにそれを上積みする目標値にしているのかってその辺の評価がわからないんですが、そこをちょっと教えていただけますでしょうか。

【市民生活部長】この部分について、他市町との比較というものは現時点でちょっと具体的なものをお示しすることはできませんけれども、その地域ごとにこの内容が異なっていることと、人口構造からいって、熱海市の高齢化率などを考えますと、他市町よりもこの参加率が高いとはちょっと言い切れない部分があるのではないかとこのように推測しております。

○健康福祉部長より 【1】 (2) 地域福祉の推進について説明。

【小泉会長】この件については、福島委員から事前に、非常に丁寧にいただいております、皆様のお手元にも配っていただいていると思います、非常にわかりやすく意見を作っていただいたので、福島委員の方からお話いただけますでしょうか。

【福島委員】23 ページ一番上の行政の取り組みのところちょっと加筆修正をさせていただきました。1 番目の市民活動・地域活動の周知や協力を行うということで、行政のスタンスとしては協力というよりはこのような活動の支援を積極的にという言葉に置き換えてみました。

それから④でいわゆる福祉まつりについて社協と連携し、ということが書いてありますが、行政の取り組みとしてこの福祉まつりに特化したことを焦点とするよりは、地域福祉の大元の法の理念であります地域共生社会の形成という大前提の目的の元に社協と行政が一体的に連携をして、まず市民生活を支えて市民の幸せと喜び拡充するという、大上段の行政の取り組みの理念

を掲げたほうがいいんじゃないかということで、この④を全面的に修正の提案をさせていただきました。

【小泉会長】ありがとうございました。これについてはいろいろいただいた意見と一緒に市の方でご検討いただきたいと思います。私もこの福祉まつりの関係は例示として出しているところだと思うんですが、総合計画の場合はそこまで具体のものを書かなくてもいいのかなということは思いましたので、またちょっとご検討いただければと思います。

○健康福祉部長より 【1】 (3)生涯を通じた健康づくりについて説明。

【田中委員】部長がおっしゃられた通り健康指標についてはなかなか県下でも低い方ではあるんですけども、これ取り組みを進めて成果が出るまで少し長期的な見通しが必要かなというふうに思っていますので、引き続き行っていくということと、先ほど来出ていますように担い手不足のところ、いらっしゃる方、支えていただく方が健康で過ごすというような観点も大きいかなというふうに思っていますので、引き続き取り組んでいただければなというふうに思っております。

○健康福祉部長より 【1】 (4)障がい者福祉の充実について説明。

【小泉会長】こちらの関係も福島委員からご意見いただいておりますのでよろしく願います。

【福島委員】資料8の下の方ですが、27ページの一番右の行政の取り組みのところですけども①～④あって、関係機関と連携して就労機会を確保するということが一番ですが、やっぱりこの部分でいけば障がい者の方の差別や社会的障壁がなくなるための意識の醸成を図るという一番の大元の理念を、③を一番に持ってくるということの提案です。

②も福祉まつりに特化した話を外させていただいて、このところにいわゆる①の関係機関と連携し、というところで就労機会の確保じゃなくて、障がい者の就労・社会参加機会を確保して支援するという行政の取り組みの文言に修正したらどうかという案です。

それから③の新しい項目として、障がい者の方々の権利や尊敬を守るため、社協と連携いたしまして、その人らしい暮らしや活動を支援するという形で障がい者が日常生活で普通に生活し、普通に活動できるような社会を目指すのが行政の考え方ではないかということで修正意見を出させていただきました。以上です。

【小泉会長】それではこれもまた行政の方でご検討をお願いしたいと思います。他にいかがでしょうか。岩瀬委員いかがでしょうか。

【岩瀬委員】案としては大変結構なんですけども、私たち障がい者としては、この計画案の27ページの主な事業の8番目に障がいのある人への合理的配慮に関する理解促進ということがあ

りますが、大きく言いますと先日改正されました障害者差別解消法というのがありますので、その理解促進を進めているところでありまして、県の身体障害者福祉会でも、その上部の日身連の方でも理解の促進を進めていると、まだまだ障がい者に対する理解が浸透していないということでこころを強くお願いしたいところです。

○健康福祉部長より【1】(5)高齢者福祉の充実について説明。

【小泉会長】ここに書いていただく必要は全くないんですが、私の個人的意見ですけれども、私ちょっと全国の地域再生のアドバイザーを、国の総務省の関係のふるさと財団という関係でやっています、全国訪問するんですが、大体60代、70代の女性の新規創業、活躍している方が非常に最近目立つ。静岡県内でも実はございます。要はもう子育てが終わって、介護が一応何とかになって、気がついたら60歳ぐらいになっているということで、よく考えたら私これから何しようかなということで、実は今まで全然やったことがないことにチャレンジしたいということで、結構60代や70代の女性の方が新しいステージに動くところがあります。何を言いたいかというと、高齢者福祉のところでは高齢者の方の豊かな経験や技術を生かしてというのは、これはこれで結構なんです、新規の創業支援の中にはそういった女性の方が実はおられるというところ、直接この地域高齢者福祉というのとはちょっと違いますが、そんな点も申し上げておきたいと思います。

○市民生活部長より【1】(6)資源環境と地球温暖化対策の推進及び【1】(7)環境意識の向上と地域環境の保全について説明。

【福島委員】31ページの指標とも含めてちょっと確認といいますか、市はかなりチャレンジ的な目指す値が書いてあるのかという意見ですけども、生活系ごみが1万2000トンから3969トンはかなり減る数字になったと。単純にいけばこんな数字はできないのかなと思いますが、その内のミックスペーパー回収量が110トンから5000トンまで増やすという、ここがおそらくこの数字のみそかなというふうに思ったんですが、ただでさえ生活系ごみがなかなか減らないところをちゃんと減らして、またミックスペーパーの回収を増やすというかなり野心的な目標かなというふうに印象を受けました。

【市民生活部長】ただいまのご質問、ご指摘に対しまして、数字から見ますと少し背伸びをした数字というふうなとらえ方もございますけれども、このミックスペーパーを回収することによりまして紙を資源化しようという仕組みを作って循環型社会をつくろうという内容となっておりますので、生活系ごみの中から紙の資源を取り出せば生活系ごみが減る、ミックスペーパーとして回収すればこちらが増えてというような仕組みになっておりますので、少し数字に差はありますけれども導入効果というところでご理解をいただければと思います。あくまで数値は目標でございます。

○市民生活部長より【1】(8)消費生活の安定と向上について説明。

<質疑・意見なし>

○市民生活部長より【1】(9)ジェンダー平等な社会の実現について説明。

【井戸委員】ここに記載された内容はこれでいいと思います。どうしても女性はここに書かれているように、私もそうですけれども、一度二度離職して、また復職するというパターンが多くて、どうしても男性が役職につくのがこれまでは当たり前と言ったら変ですけれども、大体8割、9割がそういう形をとっていたと思います。人口の男女比を考え、これまで女性の声が反映されることが少なかったですけれども、この令和に入ってこういう声が上がようになってから男女共同参画の視点から言いますと、やはり無理やりにじゃないですけど、この指標の目標値にもあります通り、女性の声が反映されるように、役職の人数、町内会の役職の人数、一番目立つ市役所の部長さん、次長さんの方への女性の登用などが目についてわかりやすく、やはり他にも反映されると思いますので、この目標にあえて書くことによって、どうしても女性ばかり盛り上げるというか、女性を最優先するような文章に見えるかもしれないんですけども、それぐらいまで書いていただいてようやく少しずつ進んでいくのかなと思いますので、この目標でやっていただければと思います。

【森田委員】余分なことを言いますと本当今の井戸委員の意見に大賛成で、上場企業はもう役員の中に一定数の女性がいないと株価が下がるぐらいの時代に来ていますので、ぜひ熱海で一番大きい会社も女性活用をしていただきたいと思います。やっぱりそこがまず見本になっていただければと思う次第でございます。

○市民生活部長より【1】(10)多文化共生社会の構築について説明。

【小泉会長】ありがとうございました。結構取り組んでいただいているところだと思いますけれども、柱として見える化していただいているということで、今他の自治体でもこういう傾向かなと思います。

○観光建設部次長より【3】(1)地域特性に応じた空間づくりについて説明。

【小泉会長】景観やいろいろな地域の環境やらを生かしてブランド力を高めてまちづくりということでございまして、熱海JCの谷委員、今年のテーマとちょっと違うかもしれませんが、熱海JCさんも長年いろいろまちづくりのテーマに取り組んでいただいているところですがいかがでしょうか。

【谷委員】青年会議所のテーマとしては、選挙というところに1年間かなり取り組もうと思っ

がいっぱい出るということもあるので毎年行われてきたこの花火大会の後のごみ拾いとかは今年もまたいろいろやっていきたいなと思います。こういった取り組みがあれば、青年会議所としてもできる限りお力になれるような体制でいようとは思っています。

【佐野委員】せっかく建設業協会から参加していますので一言言わせていただきたいと思えますけれども、令和7年の清水港のクルーズ船入港108回、これ全国でも4、5番目に入るんですけども、なぜ清水港108回も来たかという、圧倒的に富士山なんですよね。熱海に目を向けると、熱海は新幹線が着くし、先ほどからずっと言っている山もあり海もありすばらしいんですけども、それではクルーズ船で来たときに熱海って何を見ましようか。これがずっと課題でありまして、なかなかクルーズ船の寄港が定着しないというのが1つ。歴史と文化がある、温泉もあるし、芸者文化もあるので半日熱海で遊んでいただくには十分なほど魅力があるということがまだ少し出てこないのかなと思っております。

それともう一つは駅から海岸線の動線、これも20年前から全天候型のエスカレーターを作ろうとか、そんな話を検討しながら視察したこともありましたが、何か画期的な動線を作らないとちょっと難しいかなということも考えられます。

最後にこの目標値の中の渚第4工区の令和12年の100%は遅い。皆さん地域からも声が出ますけども、もう2年間ぐらい前倒しにさせていただく方がより活性化されるんじゃないかなと思っております。

○観光建設部次長より【3】(2)住環境の整備について説明。

<質疑・意見なし>

○観光建設部次長より【3】(3)道路・河川・海岸の整備について説明。

【小泉会長】先ほど佐野委員からご指摘のあった渚第4工区の整備事業というのは解説で出てくるんですけど、これ簡単に言うとメインの整備はなんですか。

【観光建設部次長】渚第4工区につきましては県事業で埋め立て工事を今進めておるわけですが、上部工ですね、上屋につきましてはの修景工、こちらについての今検討を行っているところでございまして県の埋め立てが終わった後に修景工事を予定しております。

【小泉会長】生活環境整備まで県がやる感じですか。修景工までは県がやるんですか。

【観光建設部次長】県は埋め立てるところまででございまして、そこから上部につきましては土地利用をどうするかというところを今検討させていただいております。そちらは市の方でやるというところでございます。

【小泉会長】R12 というのはこの計画上、R12 が動かないからここが 100%になっている。そういうことですね。わかりました。

○観光建設部次長より 【3】 (4) 公園・緑地の整備について説明。

【中島委員】これちょっとお願いなんですけれども、熱海の親水公園ってあるんですけれども、そちらの利用頻度が非常に高いんですが、あそこは消火栓等の設備がないんですね。あとできますればちょっと路盤の強度化をお願いしたくて。一応車の出入りはできるんですが、キッチンカーなどをおいてのイベント等ができないものですから、県と協力をして強度をもう少し確保できるようにお願いできればなあというふうに思います。

【小泉会長】ちょっと参考までに、熱海の場合適しているかどうかあれですが、島田市の駅前に本当に小さい三角公園というのがありまして、そこを市の方でリニューアルしまして、民間で小さな小屋を立てまして、チャレンジショップをやっているんですね。週替わりでチャレンジショップやっています、そこでチャレンジショップをやった人が喫茶店を開いたりしています。いろいろ公園の利用の仕方がございますが、そういう新規創業とも関連できることがあればまたご検討されたらどうか。これは単なるアイデアの話でございますので記載については結構です。

○公営企業部長より 【3】 (5) 安全な水の安定供給について説明。

【小泉会長】ありがとうございます。非常に市民生活や事業活動にとって重要なこの水の関係でございますがいかがでしょうか。熱海の場合は観光立地の関係もあって施設整備が相当早くから進められて、また規模もそれ相当な需要を見込んでやってきたということもあろうと思います。

○公営企業部長より 【3】 (6) 市営温泉の安定供給について説明。

【野中委員】内容はこれでいいと思いますんで、ちょっと 1 点教えてもらいたいですけど。今後ホテルが 800 室ほどできる中で、温泉が必要になってくる部分があると思うんですけど、これデータを見ますと、使用件数、使用量ともに下がっているので十分足りているのかなと思うんですけど、この辺は今後も十分対応は可能なんでしょうか。それともう 1 点、先日ある宿泊関係の方で開業するにあたって温泉を引きたかったんですけど、温泉がないということで引けなかったケースがあったもので、その場所とか地域によって引ける、引けないというのがあるんでしょうか。

【公営企業部長】まずホテルによって、ご自身で温泉をお持ちになっているところは市営温泉を利用しておりませんので影響はありません。エリアとしては、熱海市内で市営温泉をやっているのが泉と熱海の中心部と南熱海になります。伊豆山は市営温泉はないです。

あと量の問題ですけれども、このグラフを見ての通りなんですけれども、使用量、使用件数、それぞれ減っています。特に減っているのは、個人の方が利用しているものが減っているということです。なぜかという、これまで別荘なり個人で温泉を利用されていた方が高齢になり、亡くなり、相続されると思います。そうすると別荘で利用される方っていうのは、来る頻度がやっぱり下がってくるんですね。そうすると温泉は水道と違って、一軒それなりの金額がかかりますので、やはり廃止をしてしまうというところが大きく減少している主な理由となっております。

○公営企業部長より【3】(7)下水道施設の整備について説明。

<質疑・意見なし>

【小泉会長】 それでは今日予定した3つの大きな柱については終わりました、次回はこの重要な子どもの教育関係、今日はちょっとご発言いただいておりますが、出口委員、西島委員とかまたよろしくお願ひしたいと思ひます。次回は4番、5番と、あと人口ビジョン、人口戦略についてもお願ひする予定ですのでよろしくお願ひします。

【石井副会長】 今日は長時間ありがとうございました。この中に潜在するのは、やはり社会情勢の高齢化と少子化の問題が、熱海市のいろいろな計画にも波が入っているなということを感じます。そういう中で長期的にそういうのを見越してやることと、緊急として取り組まなきゃならないことがいろいろあったのではないかと思ひます。皆さんの意見をまた参考に、あと何回かありますので皆さんと練っていきたくと思ひます。今日は大変ご苦勞さまでした。

○経営企画部次長より次回開催案内と意見・質問の事前提出について説明。

12. 閉会